

知っていますか?
中国残留邦人等のこと



「私は日本人」より 撮影:浜口タカシ

入場無料
要申込
定員
500名様

为了加深对遗华日本人理解的论坛会

中国残留邦人等への 理解を深めるシンポジウム

戦後69年が経過し、戦後生まれの世代が人口の7割を超えている現在、
中国残留邦人等への理解を深め、次世代へ語り継ぐ機会としてシンポジウムを開催します。

日時 平成26年10月18日(土)
開場 12:30 開会 13:00 閉会 17:00 予定

会場 横浜市教育会館
横浜市西区紅葉ヶ丘53番地



演劇の上演(NPO法人劇団通化)

アクセス

- ①JRの場合、桜木町駅から 徒歩10分
- ②市営地下鉄の場合、桜木町駅から 徒歩10分
- ③京急線の場合、日ノ出町駅から 徒歩10分
- ④横浜駅東よりバス10分「戸部一丁目」下車 徒歩1分



大谷 昭宏氏
(ジャーナリスト)

パネルディスカッション
コーディネーター

プログラム ※会場では、あわせてパネル展示も行います。

- 13:00 開会あいさつ
- 13:15 ●演劇の上演(NPO法人劇団通化)
きつりんしやくどう
「吉林食堂
～おはぎの美味しい中華料理店～」
- 14:45 休憩
- 15:00 ●パネルディスカッション
「知ってほしい中国残留邦人等
のこと」
コーディネーター
大谷昭宏氏(ジャーナリスト)
パネリスト
大久保真紀氏(朝日新聞社編集委員)
中国からの帰国者の皆さん
- 16:45 合唱
- 17:00 閉会

本事業のプログラムは全て日本語から中国語への同時通訳を行います。
本业务的程序全部由日语向汉语进行同步翻译。

知っていますか？ 中国残留邦人等のこと

中国残留邦人等への理解を深めるシンポジウム

为了加深对遗华日本人理解的论坛会

シンポジウム

〈コーディネーター〉

大谷 昭宏氏 (ジャーナリスト)

元読売新聞大阪社会部記者。1987年読売新聞退社後は大阪に事務所を設けてジャーナリズム活動を展開している。「ひるおび!」(TBS)などに出演中。著書に「吉林食堂～おはぎの美味しい中華料理店～」の原作ノンフィクション「春美16歳の日本—中国残留孤児二世の青春」や「冤罪の恐怖」などがある。

〈パネリスト〉

大久保 真紀氏 (朝日新聞社編集委員)

朝日新聞編集委員。1963年生まれ。盛岡、静岡支局、東京本社社会部などを経て現職。著書に『買われる子どもたち』、『こどもの権利を買わないで—ブンとミーチャのものごと』、『明日がある—虐待を受けた子どもたち』、『中国残留日本人』など。



中国残留邦人等について

1945年(昭和20年)当時、中国東北地区(旧満州地区)には開拓団など多くの日本人が居住していましたが、同年8月9日、突然のソ連参戦により、人々は居住地を追われ、逃避中や収容所では飢餓や伝染病等により死亡者が続出するという悲惨な状況にありました。

このような混乱の中、肉親と離別して孤児となり中国の養父母に育てられたり、中国人の妻になるなどしてやむなく中国に留まった方々を「中国残留邦人」といいます。

※残留邦人の一部には、樺太や旧ソ連本土に残留されていた方もあることから「中国残留邦人等」と総称しています。

舞台公演「吉林食堂～おはぎの美味しい中華料理店～」

あらすじ **福岡で小さな中華料理屋を営む中国残留孤児とその二世の話。**

福岡で小さな中華料理屋を営む中国残留孤児とその二世の話。

1945年。日本の敗戦で混乱する満州・長春で、主人公の博(6才)は、母とはぐれて孤児となるが、幸い中国人の養父母に育てられ、長じてコックとして身を立てる。

1983年。「中国残留孤児帰国事業」により二人の子ども(新一、純子)を連れて帰国した博は、生母・マサの住む佐賀に身を寄せたが仕事があまくいかず、周囲の援助を受けて、福岡で小さな中華料理屋を開く……。

言葉の問題や学力差で高校進学を諦めた新一、高校受験を控えた純子。日本語や日本の習慣にいつになじまない父がいつも二人を悩ませる。

彼らを励ますマサは、大きな悲しみを抱えていた。戦後の満州を生き延びるために博の妹・さと子(2才)を見殺しにしたと思いついてマサは、良心の呵責の中で戦後の40年を生きてきたのだ。

ある日。さと子が、彼らの前に現れる……。

支援の現状とシンポジウム

- 国や自治体では、1972年(昭和47年)の日中国交正常化以降、中国残留邦人等の円滑な帰国の促進と定着後の自立を支援するため、身元調査などの永住帰国の支援や、各種研修施設での日本語研修などを行ってきました。一方で、中国残留邦人等の方々は、長期の残留により言葉、生活習慣、就労等の面で様々な困難に直面していました。
- これを受け、2008年(平成20年)4月から「新たな支援」として、中国残留邦人等のうち一定の条件を満たす方に対して「満額の老齢基礎年金等の支給」と「支援給付の支給」を、また全ての中国残留邦人等の方々に対して「地域社会における生活支援」を開始しました。
- さらに、今年10月から特定配偶者に対する支援(中国残留邦人等の方が亡くなられた特定配偶者に対する配偶者支援金の支給)が開始されます。
- 今回のシンポジウムは、地域社会での支援の要となる地域住民の皆様にも中国残留邦人等への理解を深めていただくとともに、次代を担う若者に中国残留邦人等の方々の経験を語り継ぐことを目的として開催します。

申し込み方法

参加ご希望の方は、名前(ふりがな)、郵便番号・住所、電話番号、性別、年齢、職業と中国語同時通訳の要・不要を明記し、郵便かFAX、Eメールで下記までお申し込みください。

FAX 下の申込書に記入して、下記へ送信してください。
FAX 045-681-3735

郵便 下の申込書にご記入の上封書でお送りいただくか、はがきに必要事項(参加者の名前、郵便番号・住所、電話番号、性別、年齢、職業、中国語同時通訳の要・不要)を明記し、下記までお送りください。
〒231-0023 横浜市中区山下町1 シルクセンター4F 株式会社横浜アーティスト内 「中国残留邦人等への理解を深めるシンポジウム」係

Eメール 必要事項(参加者の名前、郵便番号・住所、電話番号、性別、年齢、職業、中国語同時通訳の要・不要)を明記し、下記までお送りください。
info@y-artist.co.jp

オンライン ホームページからもお申し込みいただけます
http://www.y-artist.co.jp/zanryuhojin
中国残留邦人シンポ 検索

● **申し込み締め切り/10月3日(金) 必着**
(Eメール・オンライン申し込みは午後5時まで)

このシンポジウムは、日中同時通訳を行います。ご希望の方には、当日会場でレシーバーをお貸しいたしますので、参加お申し込み時に、合わせてお申し込みください。
这次活动中进行日中的同步翻译。
当天,向需要者出借同步翻译的接收器,请在参加活动报名表上,同时填写接收器的申请。

お問い合わせ

日本語 TEL 045-232-4921
横浜アーティスト内(受付時間:10:00~18:00 土日祝除く)

咨询处

中国語 TEL 03-5807-3171
首都圏中国帰国者支援・交流センター(受付時間:9:30~17:45 月祝除く)
(首都圏中国帰国者支援・交流中心)※可以用汉语进行咨询

※応募者多数の場合抽選で聴講券をお送りいたします。
※お申し込みいただいた個人情報は、主催者および運営事務局が厳正に管理し、聴講券の発送および当シンポジウムの受付管理のみに使用いたします。

申込書 FAX 045-681-3735

ふりがな	性別	男 女	年齢	歳
お名前				
ご住所				
電話番号	職業	同時通訳 要・不要		

※シンポジウムのお申し込みにはお名前の登録が必要となります。複数でのお申し込みの場合は、コピーをおとりにり人数分ご記入いただくか、別紙に同事項をご記入のうえお申し込みください。